

## 2-(1) 法人本部／東京国際大学

### I. 平成25年度事業の概要

東京国際大学は平成27年度の「東京国際大学創立50周年」を控え、次なる50年を見据えた磐石な経営基盤構築を目指している。具体的には、「スポーツの東京国際大学」「英語力の東京国際大学」を事業展開の二本柱と位置づけ、各種施策に取り組んでいる。

「スポーツの東京国際大学」に関しては、最高レベルの施設環境のもと、世界レベルの指導陣により展開される強化クラブ事業を中核に据えている。アスリート学生の学業面の支援体制は、人間社会学部のスポーツ2学科が中心的役割を担いつつ、全ての学部で受入を行っている。商学部及び経済学部には、「スポーツ・ビジネス」「スポーツ経済」の講座を設置し、アスリート学生の学修ニーズに対応している。平成25年5月時点のスポーツ系クラブ所属学生数は907名、学部所属学生の15%にのぼった。

「英語力の東京国際大学」に関しては、大学の更なるグローバル化を目指し各種施策を展開している。英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート(GTI)の立上げ、アメリカ校留学プログラムとの連動等、英語教育指導体制の強化に取り組んでいる。英語による学士課程コース「イングリッシュ・トラック・プログラム(Eトラック)」の設置を決定、平成26年度からの始動に向け体制を構築した。ハーバード大学アジアセンターとの共催シンポジウムは定例化を決定、平成24年度に続き2回目の開催となった。

時代のニーズに合致した学部・学科改革を推進していく。新設の学科・専攻である商学部経営学科、経済学部ビジネスエコノミクス専攻、言語コミュニケーション学部中国言語文化学科においては、教学コンテンツ強化に取り組んでいる。国際関係学部では、JTB総合研究所との産学連携により「観光立国プログラム」を始動させた。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に本学プログラムが採択され、全学的に取り組む。

### II. 事業項目

#### 1. 教育内容の充実

##### (1) 「スポーツの東京国際大学」の実践

実施事項：	強化クラブ及び人間社会学部スポーツ2学科を軸としたスポーツ振興の推進。商学部スポーツビジネス・ユニット、経済学部スポーツ経済コースでの学修支援体制。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本学強化クラブは、最高水準の指導者、最高水準の施設環境のもと、学生競技における最高成績を追求する。</li><li>● 硬式野球部(古葉竹識監督)、女子ソフトボール部(宇</li></ul>

	<p>津木妙子総監督、三科真澄監督)、サッカー部(前田秀樹監督)、女子サッカー部(大竹七未総監督、持田紀与美監督)、チアリーディング部(内川薫監督)、駅伝部(横溝三郎総監督、大志田秀次監督)、ゴルフ部(湯原信光監督、ラリー・ネルソン名誉監督)、硬式テニス部(佐藤直子監督)、アメリカンフットボール部(村上崇就ヘッドコーチ)を強化クラブに指定。平成26年度にはウエイトリフティング部(三宅義信監督)を創部、強化クラブに指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 17万㎡(東京ドーム4個分)の坂戸キャンパス総合グラウンドはプロ仕様の施設を完備している。</li> <li>● 強化クラブ拡充に呼応して、アスリート学生の学業面での専門性向上を図るため、人間社会学部に人間スポーツ学科、スポーツ科学科を相次いで開設し、いずれも多数の志願者を集め、強化クラブとの一体運営体制での教育環境を整備した。</li> <li>● 平成25年4月からスタートの商学部スポーツビジネス・ユニットに続き、平成26年度4月には経済学部スポーツ経済コースを設置し、アスリート学生の学修ニーズに対応する。</li> </ul>
--	--

(2) 「英語力の東京国際大学」の実践

① グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) 始動

<p>実施事項：</p>	<p>英語ネイティブ教員組織グローバル・ティーチング・インスティテュート (GTI) による英語教育強化。</p>
<p>事業内容：</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成25年4月、言語コミュニケーション学部内にネイティブの英語専任講師グローバル・ティーチング・フェロー (GTF) 組織GTIを設置した。22名の陣容で英語教育を刷新する。</li> <li>● 60分週3回、1クラス10人以下の米国型語学教育を導入、初年度は言語コミュニケーション学部の英語教育担当から着手した。</li> <li>● 第1キャンパス内に英語専用ラウンジEnglish PLAZAを設置、GTFを常駐させ、授業時間以外でも英語力鍛錬可能な環境を整備した。</li> <li>● 1989年にウィラメット大学隣接地に開設したTIUAにおいては、ウィラメット大学と連携して留学プログラムを運営、毎年100名を超える学生が約1年間の留学を経</li> </ul>

	<p>験している。GTIにおける教育は、TIUAでの教育内容と連動させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成26年度にはGTIの活動対象を拡げ、Eトラック（後述）、国際関係学部、経済学部の英語教育も担当する。</li> </ul>
--	--

## ② イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）開設

実施事項：	英語での応募・学位取得が可能な「イングリッシュ・トラック・プログラム（Eトラック）」を学部横断的に設置する。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成26年4月開講で英語学位プログラムを設置、初年度は「Business Economics Major」及び「International Relations Major」をスタートさせる。</li> <li>● 初年次英語教育に関しては、GTIが所管する。専門科目、教養科目分野では、外国籍教員を含め人員を増強した。</li> <li>● 海外から学生募集のための9月入学を導入する。</li> </ul>

## ③ 国際学生寮の建設

実施事項：	第2キャンパス内に国際学生寮の建設を決定。平成26年度入居開始に向け建設に着手。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Eトラック学生や交換留学生を受け入れるため、国際学生寮の建設に着手した。収容人員75名で、平成26年8月竣工予定である。</li> <li>● 留学生の生活支援のため、日本人学生によるレジデンシャル・アシスタント制度を導入する。レジデンシャル・アシスタントの英語力・コミュニケーション能力向上も企図する。</li> </ul>

## ④ ハーバード大学アジアセンター共催シンポジウムの定例化

実施事項：	本学とハーバード大学アジアセンターの交流プログラムを継続。第2回共催シンポジウム「安全保障を考える」を開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハーバード大学ジョセフ・ナイ教授、外交評論家・MIT国際研究センター シニアフェロー岡本行夫氏による講演・パネルディスカッションを実施。安全保障に関連した諸問題について活発な議論が交わされた。</li> <li>● ハーバード大学アジアセンターとの共催シンポジウムは定例化していく方針で、平成26年度も前年同様ジョセフ・ナイ教授を招き、「安全保障」につき最新の議</li> </ul>

	論を展開する予定である。
--	--------------

(3) 学部学科改革の推進

① 新設の学科・専攻における取組

実施事項：	新設の学科・専攻である商学部経営学科、経済学部経済学科ビジネスエコノミクス専攻、言語コミュニケーション学部中国言語文化学科における、教学コンテンツ強化に取り組んでいる。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商学部経営学科では、社会的価値を創造する経営者・ビジネスパーソン育成に取り組む。</li> <li>● 経済学部ビジネスエコノミクス専攻では、ファイナンス及びストラテジストの2コースを設置し、専門性の高い人材育成に取り組む。Eトラックも開設し、Eトラック以外の学生に対してもGTIによる英語教育を行う。</li> <li>● 言語コミュニケーション学部中国言語文化学科では、少人数制クラスでの中国語・英語教育に取り組む。</li> </ul>

② 国際関係学部「観光立国プログラム」

実施事項：	JTB総合研究所との産学連携により、「観光立国プログラム」を始動。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JTB総合研究所の実務家を招き、観光に関する実践的教育コンテンツを整備した。</li> <li>● MICE産業論や、JTBグループと連携したインターンシップ等、先端的・実践的プログラムも設置し、「観光立国」を担う人材の育成に取り組む。</li> </ul>

③ 言語コミュニケーション学部「スタディー・ツアー」

実施事項：	言語コミュニケーション学部において、米国及び台湾でのスタディー・ツアーを必修化。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語コミュニケーション学科においては初年次で、中国言語文化学科では二年次で、原則全員参加のスタディー・ツアーを導入した。</li> </ul>

(4) 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」

実施事項：	「小江戸かわごえ」グローバル人財育成による「まちおこし」プログラム。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学のプログラムが文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択され、全学的に取り組む。</li> </ul>

(5) リメディアル教育、キャリア教育の推進

実施事項：	従来から各学部が独自に試行してきたリメディアル教育の改善策を検討し、「キャリアプランニング」科目を設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 基礎学力の充実と自己表現力、発信力強化のため、1年次の演習指導と連携した初年次教育のありかたをプロジェクトチームで検討。従来から学部毎に演習（ゼミナール）授業などで実施してきたキャリア教育を全学共通の「キャリアプランニング」科目として設置した。</li></ul>

(6) 入学前教育の推進

実施事項：	入学者の多様化に対応した基礎学力向上策として、入学前学習指導を全学部共通のプログラムで実施。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本学は、従来から入学者の多様化・学びの意識変容に対応した基礎学力向上策として、自己発見のヒントを与える工夫を各学部で実施してきたが、平成20年度より5学部共通のプログラムを開発、入学前学習指導として大学教育への導入教育を継続実施している。</li></ul>

2. 就職支援体制の強化

(1) 就職支援体制の充実化

実施事項：	少人数ゼミを通じた就職支援、スポーツ系クラブ学生へのサポート。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 就職課職員とゼミ担当教員連携による学生一人ひとりへの就活個別サポートを実施した。</li><li>● 体育会学生に対しては、スポーツ関連企業等その特長を活かした進路を選択し、専門のカウンセラーがサポートする体制を敷いている。</li></ul>

(2) 公務員試験対策講座

実施事項：	正規授業時間内での受講、単位認定される公務員試験対策講座の設置。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 専門の教育機関と連携し、公務員対策講座を商学部及び言語コミュニケーション学部中国言語文化学科にて開設した。</li><li>● 1年生からの積重ねで学習を行うプログラムが組み立ており、効果的な公務員試験準備が可能となる。</li><li>● 一般企業就職対策としても有効なプログラムである。</li></ul>

### 3. 文化・芸術事業の推進

実施事項：	学生、保護者向けの文化イベントを開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 紀尾井ホールにて東京クラリネット・クワイアーによるコンサートを開催した。</li><li>● 駐日スロヴァキア共和国大使館公使による講演会及び加瀬英明氏による講演会を開催した。</li></ul>

### 4. ホームカミングデイの開催

実施事項：	同窓会（霞会）と本学共催で、ホームカミングデイを開催。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 卒業生との結びつきを一層強固にするため、第4回ホームカミングデイを、秋霞祭開催期間中に同窓会（霞会）と本学との共催で実施した。</li></ul>

### 5. 教育研究環境の整備

実施事項：	キャンパスの環境整備を実施。
事業内容：	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学生への福利厚生の一環として、第1キャンパスにおいて、最も利用者数の多い食堂3のリニューアル工事を実施した。</li><li>● 第2キャンパスへのウェイトトレーニング場及びトレーニング・ルーム設置を行った。</li></ul>

## 2 - (2) 東京国際大学附属日本語学校

### I. 平成25年度の事業の概要

本校は、東京国際大学の附属日本語学校として昭和 62 年(1987年)に開校し、全日制の「進学課程」「準備教育課程」を特色として、台湾、韓国、香港を中心に卒業生は 5,000 人を超え、その進学実績や卒業生の活躍振りにより、「大学進学に強い日本語学校」という評価を得てきた。

しかし、留学ニーズが多様化していることから、昨年度に半日制の「総合課程」を新たに設置し、今年度からベトナム、フィリピンを中心に本格的な学生受入れを開始した。

### II. 事業項目

#### II-1 正規課程

課 程	A. 進学課程		B. 準備教育課程※		C. 総合課程	
授業時間	全日制(週26コマ)				半日制(週20コマ)	
入学時期、 就学期間	4月(1年コース) 10月(1.5年コース)				4月(1年、2年コース) 10月(1.5年コース)	
入学者数	4月:53名	117名	4月:10名	24名	4月:58名	97名
	10月:64名		10月:14名		10月:39名	
4月:121名、10月:117名 計238名						

#### ※準備教育課程

フィリピンなど高校までの学習期間が12年未満の国の学生を対象とし、日本語のほか、数学、英語等の基礎科目も学ぶことで日本の大学進学資格を得られる文部科学省認定の課程。

従来から本校募集の中心である台湾、韓国、香港における東日本大震災・放射能汚染報道、円高、領土問題等の影響による留学生減少に歯止めがかかるとともに、ベトナム、フィリピンを中心に総合課程の学生の本格的な受入れを開始したことで、入学者数は前年度 152 名に対し 86 名の大幅増加となった。

#### II-2 短期聴講・プライベートレッスン

##### 1. 短期聴講

- ・ 1ヶ月から6ヶ月の期間で実施。
- ・ 純然とした短期聴講もあるが、10月・4月の正規課程入学に先立ち、7月ないし1月から3ヶ月短期聴講する学生が大半(7月短期:14名、1月短期:5名がその後正規課程に入学)。
- ・ こうした学生に対しては、年4回入学(4・7・10・1月)の大手他校に対抗するため、正規課程入学時の入学金(10万円)免除等により囲い込みを図っている。
- ・ 短期聴講生は、正規生クラスに編入するのが通常であるが、7月には日本語ゼロレベル学生向けの単独クラス(3ヶ月間)を設置した。

## 2. プライベートレッスン

個人から4名程度までを対象に、各人にあった個人レッスンを行う。

なお、今年度は前年度に引き続きオランダ大使館関係者、シンガポール大使館関係者に対し大使館での出張授業を行い、本校の教育レベルの高さをアピールした。

## II-3 短期研修プログラム

将来の学生募集に向けての広報活動として、海外の中・高校生や大学生を対象に、1週間から7週間の短期日本語研修プログラムを実施した。

	A. 大陸： 台湾人学校	B. 台湾： 大学生短期	C. 台湾： 育達高校	D. 韓国： 慶熙大学校
1. 実施時期	7/3～7/12	7/5～8/21	7/8～7/14	8/5～8/23
2. 参加人数	20名	7名	13名	29名

内容は、日本語研修のみでなく、日本文化体験や地域見学も取り入れ、日本の魅力を感じさせるものとしている。

具体的には、日本文化体験としては、「浴衣着付け」や「盆踊り」「茶道」「華道」「寿司握り体験」など、また地域見学としては「T I Uと川越散策」「東京ディズニーランド」「江戸東京博物館」「お台場科学未来館」見学等を実施した。

上記のうち、C.は親密校である台湾育達高校と、またD.はT I Uの姉妹校である韓国慶熙大学校の短期研修プログラムで定例のものであるが、A.は重点取組分野である中国・東莞市の台湾人学校学生を、またB.は夏休みを使って日本語を勉強したい台湾人学生を対象とした新たな取り組みである。

## III. 進路

平成 25 年度卒業生は 128 名で内訳は以下の通り。

種別	大学院	大学・短大	専門学校	就職・帰国	その他	計
人数	2	60	21	33	12	128

うち大学合格実績は、国公立:4名、早慶上智:6名、MARCH:12名、T I U :14名他。

## IV. 主な実施施策

### 1. インターネット広告の実施

昨年度末の本校ホームページ全面更新(日、英、中、韓)を踏まえ、従来各海外分室に委ねていたインターネット広告につき、本校主導で台湾(yahoo奇摩)、韓国(Naver)で9月～11月に集中実施した結果、アクセス数・問合せ数とも大幅増加となった。

### 2. 進学課程における基礎科目受講料の分離

非進学希望学生の増加を踏まえ、従来セットになっていた進学課程の英語、数学等の基礎科目受講料を平成 26 年 4 月生から別建てにすることで授業料の見直しを行い、他校比価格競争力の確保を図った。

### 3. 卒業生・在校生子弟優遇制度の導入

卒業生や在校生の子弟(親子、兄弟、甥姪、従兄弟)の入学金を免除し、同窓会ルー



トでの募集強化を図った。

4. 常勤講師（任期付教員）制度の導入

開講クラス数増加、専任教員の退職等によるクラス担任不足への対応として常勤講師（任期付教員）制度を導入し、非常勤講師4名を採用した（期間1年、最長5年）。

## 2 - (3) 一橋学院早慶外語

### I. 平成25年度事業の概要

18歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来により、大学入試の難易度は全般的に下がっているものの、難関大学においては入試難度・倍率が維持されている。大規模予備校でのマンモス教授法にあきたらない難関志向の受験生にとっては、こうした高難度の入試に対応できるよう学力を伸ばし普遍的な思考力の獲得を指導しうる少人数制予備校が待望される。少人数制教育を掲げる本校としても、徹底した面倒見の良さを実践する「難関大学に強い予備校」として最良の教育システムの確立を図り、「難関大学に行くなら一橋学院」という評判を受験界に定着させ、ブランド力のある早慶上智大・MARCHなどの難関私大を中心に、難関大志望者を安定的に獲得することが採るべき方向性となる。

クラス編成においては、国立・私立・理系・文系を設置する総合予備校の形態を維持することで他の少人数制予備校との差別化を図る。そのうえで、戦略的にレベル・設置クラスの重点配分を行うことで募集ターゲットをより明確に打ち出し、一層効果的な生徒募集につなげていく。

その一方でカリキュラムの効率化、テキストのデータ化、また、業務の一層の効率化・スリム化を図り、経費削減も行った。

### II. 事業項目

#### II-1 高卒生コース

##### ・事業の概要

「いちばん行きたい大学へ」進学するために積極的に浪人を決断した高卒生の入学獲得に努めた。不本意な大学には入学せずに、納得いくまで勉強してみようという意欲ある受験生こそ本学院を支えてくれる基盤である。

設置クラスは、東大、一橋大、早大、慶大などの最難関大学を目指す「専科クラス」からMARCHレベルの一般クラスまで、受験生のニーズに適合したクラス編成を行った。

また、少人数制のメリットを活かし、「チューター制」や「毎朝テスト」、「学力基幹別授業」「カスタマイズ授業」「入試研究ゼミ」といった特色を持たせ、志望大学合格まで一人ひとりに対して徹底して面倒をみるシステムをアピールし、入学者の獲得を図った。

#### II-2 高校生コース

##### ・事業の概要

新宿・池袋地区は、予備校・塾（高校生専門予備校も多い）の激戦区であり、生徒獲得の厳しい環境にある。本学院はその中間に位置する高田馬場に立地し、近隣の進学校、西武新宿線沿線在住の生徒を中心に入学者を獲得した。

設置クラスは、原則として、難関～基礎間で4レベル設定し、教科ごとに学力レベルや志望校に合わせた最適なクラス選択ができる編成を行った。また、高3生には東大・一橋大に的を絞った特別カリキュラムの「プライムゼミ」を設置し、他校との明確な差別化を図りつつ「大学受験の名門」としての存在をアピールした。

また、高3生コースにおいては「安心の合格保証制度」を前面に出し、生徒獲得を図った。「合格保証制度」は指定条件を満たして学習したにもかかわらず、万一、満足のできない入試結果になり、翌年度も一橋学院に在籍し再チャレンジする場合は、高卒コースのレギュラー授業料を全額免除することを約束する制度である。

## II-3 夏期講習

### ・事業の概要

「夏を制する者は受験を征す」という言い方があるように、夏の過ごし方は受験の成否を大きく左右する。夏期講習期間は1ヵ月半にわたり、参加者の多い重要な公開行事であるが、近年、各高等学校で独自の夏期講習を自校生徒に対して実施するケースが多く、高校生獲得に影響を及ぼしてきている。こうした状況において、大学受験を専門とする予備校ならではの魅力のある講座編成を行い、高等学校での講習との差別化を図った。

## II-4 冬期講習・直前ゼミ

### ・事業の概要

冬期講習・直前ゼミは、高校3年生、高卒生にとっては入試直近の時期のため、大学入試センター試験・志望大学対策をメインにした講座を設置し、実践力～合格力を養成した。

また、高校1年、2年生の冬期講習参加者は新年度入学に直結するため早期から受験対策を図ることをアピールし獲得を図った。

## II-5 リアル入試センター試験

### ・事業の概要

大学入試センター試験当日の夜、同一問題を高校2年生に体験してもらう企画である。現状のセンター試験は、国公立大志望者のみならず、私大志望者も多数参加する一大試験となっている。このリアル入試センター試験により、2年生時点での学力を把握し、志望校までの距離を確認することができ、好評を博している。近年は他予備校でも実施するケースが多くなっているが、本校は他予備校に先駆けて本イベントを開始し、高校教員など教育関係者からの信頼も厚い。

新聞やインターネットで公表される試験問題を眺めるだけでは味わえない臨場感を体験するのがポイントとなっており、単に問題を解答するだけでなく、本学院講師が解説授業を行い、さらにはマークシートをコンピュータ処理して個人成績表も発行している。

また、1週間後にも同様に実施することで、幅広い受験生の獲得に成功した。1年後の本番への重要な指針となるため、高校2年生に好評を博しており、取りまとめでの参加を希望する高校が年々増加している。今後も高校とのパイプを太くするためにも重視すべき事業である。

## Ⅱ－6 2月ゼミ

### ・事業の概要

高校1年生・2年生を対象に、2月短期完結の講座を特別講習として設置。新学年に向けた学力の向上と定着を図る本ゼミは、同時に新学年生徒募集を開始する公開行事であり、高校生獲得のためには極めて重要なものである。「1講座無料招待」や抑えた受講料での「定額制」を用意することで、受講し易い環境を整え、「リアル入試センター試験」で本学院に関心を持った高校生が、さらに本学院で継続的に学習を進めていけるように企画した。そのため、春イベントや春期講習への連結も考慮した設置講座・広報活動を行った。

## Ⅱ－7 春期講習

### ・事業の概要

高等学校の春休みを利用して、新学年の準備のために開催される講習会である。予備校としては、4月新学期入学生の確保のための前哨戦とも捉えられる。期間が短いため新高1・高2・高3生に向けたコンパクトな講座（160分×2日＝320分）を設置し、短期間で高校生に本学院の授業の質の高さを実感してもらえるように企画した。また、カリキュラムは新学期授業に連結させ、新学期へ継続受講を促した。

## Ⅱ－8 大学でのリメディアル教育

### ・事業の概要

近年、大学生の基礎学力を補強するために、大学がリメディアル教育として補習授業を行うことが多くなってきた。こうした状況の下、本学院でも以下のリメディアル教育を行った。

#### ①講師派遣による補習講座

<内容>

- ・補習教科 数学、国語表現
- ・授業回数 数学16回（1回90分）  
国語表現32回（1回90分）

#### ②入学準備プログラム

<内容>

- ・入学後の授業において授業内容を理解し、レポートなどの作成を円滑に行える文章表現力を養う。
- ・課題添削指導